

—図書館活用の勧め—

大学での学びは、高等学校までの学び方とは異なる力が求められます。解にたどり着くまでに複数のルートが存在し、それらに対して時間をかけてトライ&エラーしてみる勇気、いわゆる正解のない「問い」との対峙、そして「問い」そのものを見つける力などです。

このような学びに寄り添う多様な資源が大学にはあります。附属図書館が提供するサービスもその一つです。図書館というと所蔵されている図書を借りるか、受験勉強や授業の課題を一人静かに進めるための場所、というイメージを持たれている人もいますが、大学附属図書館が持つ機能はそれだけではありません。その特徴は「専門性」と「自律性」にあります。大学での研究活動によって蓄積されてきた知見に裏付けられた専門性豊かな蔵書、資料、学術情報データベースが整備されています。これらは、たくさんの学術的な「問い」の存在を示してくれるとともに、その解を導き出すためのヒントや（時には落とし穴も）を提供してくれます。

また、今日の大学附属図書館はインターネットによって、全国の大学附属図書館と繋がっています。このことはわれわれが福山市にいながら、大都市にある巨大な大学図書館と同等の情報にアクセスできることを意味しています。本学附属図書館の棚にある情報だけでなく、ここにはない図書、資料、学術論文を求めて、自律的にその手を伸ばしていく姿こそ、大学の学びを象徴すると言えるでしょう。初めから手を伸ばすことは難しいと思う人もいるでしょう。附属図書館では、その手の伸ばし方、探し方を相談できる体制を整えています。

数年にわたる感染症禍は、私たちの社会や大学の学びに様々な変化をもたらしました。技術の発達により、情報のやり取りは従前よりも容易になったようにも思えますが、一方でインターネット上において増大した情報量は、われわれ自身が見極め、選び取る力を試しているかのようです。学生の皆さんの前に広がる混沌とした世界を進む道しるべとなることを、附属図書館職員一同、願っています。どうぞ、ご活用下さい。

附属図書館館長 清原昭子